

頑張る

# 農業法人

鬼伝説のまちとして知られる福知山市大江町の河守地区で、2010年4月に設立された農事組合法人「鬼の里農園」。

105戸で「大江町河守地区営農組合」を組織し、その3年後に圃場整備が完成した。

大型圃場整備32鈔のうち9割以上で、効率の良い2年3作の経営。8集落94戸の堅い結束力で地域活性化に努めている。

その後JAや行政から法人化への働き掛けがあり、1年間協議を重ねて昨年の総会で法人化を決定。94戸で立ち上げた。

河守地区は由良川沿いにあり、よく水害に襲われていた。小区画で不整形な農地が散在し、農家の高齢化・担い手不足で遊休農地が増えていた。そうした中、1989年に河川改修と合わせ、大区画圃場整備計画が立てられ、94年に関係8集落で「河守圃場整備委員会」を設立。さらに水稻中心とした土地利用を検討する「河守地域農場づくり協議会」をつくり、98年4月に全地権者

現在、新井春男代表理事(68)ら役員3人、オペレーターなど従業員19人で、全農地32鈔のうち29・5鈔を、所有権と利用権を完全分離し一括管理。耕起、田植え、収穫等の受託もする。  
1枚3鈔の圃場もある大規模圃場が広がり、水稻(コシヒカリ、どんとこい)とブランド小豆「丹波大納言」、小麦を2年3作している。  
小豆は9鈔で播種、収穫を機械化。大型機械が

福知山市大江町河守

## 鬼の里農園

大型トラクターに関わる新井春男代表理事



## 8集落農家結束し活性化

## 農地の所有・利用権完全分離

効率良く動けるよう、周囲を道として播種しなかつたところ、作業効率が向上し反収120キを達成。また土混入も課題

だが、センサーを取り付けて防いでいる。この他、1鈔に100万本のコスモスを植え、満開期にコスモス祭りイベントを毎年開催。大勢の人が訪れてにぎわい、地域活性化にもつながっている。

▽法人の所在地 福知山市大江町波美882  
電話 0773(56)1233

ているが、6次産業化への一歩として米を「鬼の里米」で、小豆を鬼のモザイク袋に入れてそれぞれ、近くの北近畿タンゴ鉄道大江駅にある土産物店で販売、人気を集めつつある。  
法人では今後、女性部を結成し、「鬼の里ブランド」の、餅・おはぎ・ようかんなどの加工品作りも目指している。  
その一方で課題は後継者の確保。法人では、40、50代の人たち19人を雇用し、オペレーターやその補助などに携わってもらうことで、地域農業を守る組織の大切さに目を向けてもらっている。  
新井代表理事は「法人化したことで外部から信頼されている。またJAグループ京都農業法人協会に加入したことで情報交換でき、今後の活動の参考になる」と法人化の意義を話していた。